

超人伝説 2——野球編

今月は野球についてまとめた。

大リーグの歴史は古く、140年に及ぶ。何万人が関与しているかわからないが、「超一流」の選手が目白押しである。小生は野球の解説者でも評論家でもないからそれほど詳しくはないが、それでも10人くらいの名前はすぐにあげることができる。かれらは、いわゆる超人である。タイ・カップ（球聖）、ルー・ゲーリック、ベーブ・ルース（ホームラン記録を長らく保持）、テッド・ウィリアムス（最後の4割バッター）、スタン・ミュージアル（The Man; 男の中の男。日本でいえば長嶋茂雄のような存在。つまり打ってほしいときに打つ）、ミッキー・マントル、ウィリー・メイズ（Rifle Arm; 鉄砲肩。ワールドシリーズでセンターへの大飛球を後ろ向きにキャッチした。The Catchと呼ばれる）、ジョー・ディマジオ（連続試合安打の記録を持ち、マリリン・モンローと結婚した人気男）、ハンク・アーロン（ホームラン記録を更新した）、カル・リプケン（連続試合出場記録）、ボブ・フェラー（火の玉投手）、サイ・ヤング（唯一の500勝投手）、ウォルター・ジョンソン（三振奪取記録を長らく保持していた400勝以上）、ノーラン・ライアン（公式に時速100マイルを超えたと初めて認められた。三振奪取王）、などなどである。

中でもベーブ・ルースが日本でも人気がある。1910年代八百長で人気がなくなったとき、彗星のように現れて従来のホームラン記録を大幅に塗り替えた。彼ひとりが打ったホームランの数が他チームすべて併せたより多かった。これでふたたび人気を取り戻した。「超人」というのは、1分間78回転のレコードの字を読んだことからわかる。それほど動態視力がすぐれていた。・・・テッド・ウィリアムスにもこの逸話がある。ベーブ・ルースには、(教科書に載っていたのだが) 病気の少年を見舞った後の試合で、はるかセンター方向を二本の指を指してそこにホームランを打ち込んだ。

テッド・ウィリアムスは、黒人差別を全くしなかった男で、メイズを励ましたりした。軍隊にいるとき、小銃の射撃で一流が50%くらいのところ77%の記録を残している。テッド・シフトにも対応した。また別に、1本足打法を行っていた選手もいる。

日本では歴史が短いので、絶対数が少なく、超人と呼べる選手がすくない。長嶋や王、金田などは超一流に間違いないが、「超人」と呼べるだろうか？ イチローも同じく、超一流だが他の選手より一段か二段か動態視力が優れているのは間違いないが、超人とまで呼べるかどうか。

日本でこの人は「超人」だと呼べるのは西鉄ライオンズの中西太である。折れたバットでホームランを打ったとか、怪我をしていたため結果として左手1本でホームランを打ったとか、ファールチップがネット裏の席にキナ臭いにおいを漂わせたとか。もっとも有名な逸話が、ショートライナーと思った選手がジャンプしてグローブの先をかすめた球が外野スタンドに飛び込んだ。異様な軌跡のホームランである。ただの放物線ではない。

基本的には日本の野球と大リーグを記録・数字だけで比較するべきではない。まずレベルが違いすぎる。歴史が違うし、価値観も異なる。王が大リーグの球場で打ったホームラン性の当たりがフェンスの前でお辞儀するように落ちたというように球場の広さも違うし、空気の乾燥度やボールの反発力も異なる。長嶋や王のレベルが高く、大リーガーにひけをとらないとしても他の選手のそれは低いだらう。一度や二度は目先を変える意味で通用するかも知れないが、そんなに続くものでもないだらう。・・・だから、単純な比較は不可能だし、無意味でもある。

数字だけでいえば、黒人の大リーグへの参加がまだ認められなかった時代の黒人選手の数字は驚くべきものがある。「黒いベーブ・ル

ース」と言われ、あるいはベーブ・ルースを「白いギブソン」と呼ばせたジョッシュ・ギブソンの生涯ホームラン記録は**962**本である。**35**歳で亡くなったが、打率も**.391**である。両者のホームランを見た人によるとギブソンの方が飛距離は上だったという。さらにサチュエル・ペイジがすごい。(ギブソンとバッテリーを組んでいた。) **2500**試合以上投げて **2000**勝以上、**350**完封、ノーヒットノーラン **55**回などの記録が残っている。**40**歳を過ぎてから大リーグへの参加がみとめられた(戦争で白人の若い選手が減ったからという。)が、全盛期ほどではなかったが、それでもスピードはすごかったという。

1927年のニューヨーク・ヤンキースが史上最強といわれているが、**1935**年のピッツバーグ・クローフォーズ(ペイジやギブソンが所属していた)の方が強かったという人もある。

黒人リーグと大リーグとはレベルが違うという人もいるが、現実に黒人選手の大リーグでの活躍をみれば嘘とわかるだろう。事実黒人リーグと大リーグがオープン戦をすると**6-4**くらいで黒人リーグが強かった。

だから王の記録を世界一と称するのは、彼らからみれば笑止千万である。ただし王はみずから世界一と言ったことはなく、**800**本以

上のホームランを打ったことは偉業であることは間違いない。

1999.06.04.

さて10年経った。イチローが大リーグに行き、3年目だったかに大リーグのシーズン安打記録を塗り替えた。ジョージ・シスラーはタイ・カップのライバルとされていたが、すでに忘れられた伝説上の選手でイチローにより再び日の目を見た。（日本でもイチローが200本安打したことにより藤村富美雄の191安打の記録が甦った。）イチローは、2010年10シーズン連続シーズン200安打を記録し、ピート・ローズの（連続ではないが）9回の記録を塗り替え、キーラーの8年連続記録も破った。キーラーの場合は20世紀以前のルールも異なるものであるため参考記録程度であるが、それも塗り替えた。2007年のオールスター戦で史上初のランニング・ホームランを記録し、「神懸り」としか思えない状態であった。そして「超人」の仲間入りを果たした。……つまり200本安打というのは、3500安打以上を記録した選手で初めて問題になる数字である。イチローに言わせると、自分は超人でもなんでもなく、ただ「準備する」行為が苦にならないという才能にめぐまれたただけだ、という。いい表現だが、イチローは現役でいながら、すでに**伝説の人（プレイヤー）**

になった。

上記、サ切尔・ペイジの逸話であるが、時速 158km とか 164km といわれたボブ・フェラーが同じチームでプレーしたが、42 歳のペイジが投げる球をみて「ペイジのスピードからみれば自分の投げる速球は、チェンジアップのようなものだ」と感慨をもらしたという話がある。さらにサ切尔・ペイジとノーラン・ライアンの投球を受けた人が比較して「ライアンのは時速 100 マイル(161km)だが、ペイジのそれは時速 111 マイル (179km) だ」と言ったという話があるが、これは全盛期に受けたものではないから当てにはならないにしても、42 歳の時の映像を見る限り時速 170km~180km だったというのは本当らしい。掛け値なしの「史上もっとも速い球を投げた」投手である。また、ジョッシュ・ギブソンは、自分が黒人選手として初めての大リーガーのつもりでいたところ、若手のジャッキー・ロビンソンに先を越されたためか慣れない酒におぼれ、35 歳で早逝してしまった。当時、「黒いルース」・「白いギブソン」のいずれにしても、ルースがはるかに得をしていると言われていた。

日本ではいつも**伝説**の沢村栄治が最速になる。しかしその当時を知る人に聞けば、「常に最速ではなかったし、安定感といい、スピー

ドといい、スタルヒン（白系ロシア人；最初の 300 勝投手。）の方が上だ」という。沢村はスタルヒンの横で投球練習をするのを嫌がったというし、小西得朗さんの話では「金田くんが一番速かったんじゃないの」。金田の全盛期をぼんやりとしか覚えていないが、肩も肘も大事にしていた選手である。ただ、ボクの印象に残る投手は山口高志である。オールスター戦に登場したとき、投球が糸を引くように残像として残った唯一の投手である。今ナイター中継を見ていて、そんな球を投げる投手はいない。

日本のプロ野球の歴史は、昭和 9 年ヤンキースがルースやゲーリッグらを連れてきたときに始まるのだが、その象徴が沢村栄治であり、生前「このままプロ野球が隆盛になればボクが作った、と言われるのかな。」と語ったとお嬢さんが言っておられた。（プロ化するとき「見世物になる」とかなり躊躇したという。）そしてプロ野球中興の祖は長嶋茂雄である。人気を不動のものにした。イチローは野球そのものの考え方を変えた男で、打つ・そして走る、ではなく、打つことと走り出すのが同時（だから内野安打が多くなる）という状況を作り出した。つまり野球を変えた男である。 2010.09.30.